

## 優秀賞 (林野庁長官賞)



ライフスタイルデザイン部門  
建築・空間分野

### スマート倉庫® (埼玉県)

三井ホームコンポーネント (株)  
(東京都)

枠組壁工法用製材で構成された、木造平屋倉庫。従来からある木造倉庫と比較して、重量、工期、コストのいずれも優れており、動線の確保や視認性が求められる倉庫としての機能面も細部にわたって工夫を凝らしている。鉄骨造のイメージが強い倉庫の木造化に取り組み、物流と木質化の融合という新たな市場を拓いた。



ライフスタイルデザイン部門  
木製品分野

### 国産間伐材の 木製ストロー AQRAS

(株) アキュラホーム (東京都)

国産間伐材を厚さ 0.15mm にスライスしたものを活用したストロー。国際的な脱プラスチックの流れを受けた、時宜に合った製品である。スギ、ヒノキ等の間伐材のみならず、松、シナ、楓、桜など、多様な地域材が使える。通常は使いにくい節目部分も巻きの技術で強度が出せるため、省資源化にも応えている。



ライフスタイルデザイン部門  
木製品分野

### 樹木から生まれた 神秘のファブリック

緑樹の糸 (大阪府)

木材チップを微粒子化し、繊維として紡ぐことで、さまざまなファブリック製品として暮らしを彩るものになっている。地域の物語性のあるスギ、ヒノキ、ケヤキなど多様な樹種から製作ができるため、生活者への訴求もしやすい。消費者目線での新たな木材利用の好例である。



ハートフルデザイン部門  
建築・空間分野

### 未来のまちに贈る家 (北海道)

(株) 平成建設 (静岡県)、  
網野禎昭 (東京都)、宮田雄二郎  
(東京都)、新栄工建 (株) (北海道)

北海道産トドマツを活用した、ローテク構法を採用した木造住宅。利用価値が課題となる主伐期を迎えたトドマツの活用や構法の工夫で地元林業や地場産業の活性化につなげている。ライフイベントに応じてフレキシブルに空間構成でき、使い継いでいくことで、持続可能な地域社会づくりに貢献する。



ハートフルデザイン部門  
木製品分野

### ふればらウッド

堀内ウッドクラフト (神奈川県)

主に病院で子どもに検査などの説明をする際に使う玩具。医療現場では木製品の使用が少なく、特に CT、MRI など専門機器を必要とする検査の際に子どもの心理面での不安を払拭するためのキットとして、温かみのある木を採用している点が優れている。個々のづくりも非常に丁寧で、開発者の思いが伝わる製品である。



ハートフルデザイン部門  
コミュニケーション分野

### こどもの けんちくがっこう

NPO 法人こどものけんちくがっこう、  
国立大学法人鹿児島大学大学院理工学  
研究科建築学専攻環境建築研究室、  
(株) ペガハウス (鹿児島県)

大学と工務店の産学協同による「習い事」としての建築教育プログラム。学校現場のみでは体験し得ない、川上から川下までを学ぶ本格的なもので、夏季特別授業では実際に建築物を建てるまで実現している。地域に住み続けること、地域の資源を街づくりへ活かすことの重要性を伝えている点を高く評価した。



ソーシャルデザイン部門  
建築・空間分野

### 屋久島町庁舎 (鹿児島県)

アルセッド建築研究所 (東京都)、  
屋久島町 (鹿児島県)、ホルツストラ  
(東京都)、坂田涼太郎構造設計事務所  
(東京都)、(株) ヒラウチ建設 (鹿児島  
県)、松下生活研究所 (熊本県)

地元産の杉材のブランド化へ向けた取組とともに、利用する町民にとっても、働く職員にとっても木質感を存分に味わえる美しいデザインの庁舎を実現。庁舎建設と材の生産・販売ネットワークの構築を同時に進めており、建物自体が島の木材利用のプレゼンテーション拠点となっている。



ソーシャルデザイン部門  
建築・空間分野

### 海陽町ハウスビレッジ (徳島県)

海陽町 (徳島県)、  
(株) カイトアーキテクト / 京智健建築  
設計事務所 (大阪府)、  
マエダ建設 (徳島県)、坂本設備工業 (株)  
(徳島県)、野根建築 (徳島県)

地域の移住体験のための施設設計に地域材の良さとロケーションを組み合わせ、「地域の魅力」を感じてもらう場を作っている。家族構成ごとの間取り提案もあり、地域を体験する入り口としての住宅の在り方や同様の課題を持つ地方都市の参考となる取組として高く評価した。



ソーシャルデザイン部門  
コミュニケーション分野

### 低温乾燥による 国産杉材の付加価値向上 プロジェクト

(株) 中央住宅 (埼玉県)、  
(株) モリアン (大阪府)、  
全国森林組合連合会 (東京都)、  
東京大学大学院薬学系研究科 (東京都)

森林組合、製材・建材メーカー、住宅メーカーの共同による「川上から川下まで」個々の強みを相互補完したプロジェクトであり、国産材の高付加価値化戦略として社会提案性が高い。大学の薬学系研究室との連携によって、香りなどの木の効能のエビデンスも準備され、消費者メリットを明らかにした点も優れている。